

インターネットの普及が70%を越えたそうです。情報入手には欠かせないツールとして、さらにブロードバンド化で新たなメディアとして、電気や水道のように必要不可欠な物になってきました。

皆さんは、インターネットをどのようにお使いでしょうか。ホームページ、電子メール、チャット、オークション、通販あるいは会社のサーバにアクセスして自宅で仕事ですか。



インターネットが威力を発揮したのでは、災害のときもそうでした。電話が繋がらないとき、メールで安否を知らせる事ができました。今、イラクは大変な混乱がつづいていますが、インターネットは通信の手段として使われています。海外の親戚にインターネットのテレビ電話で連絡をとる姿を見られた人もいることでしょう。

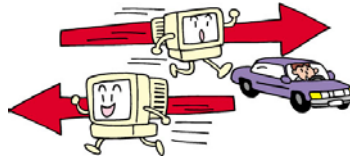
インターネットは、元々、軍によって開発されました。危機に強い分散ネットワークがその特徴ですので、災害時こそそのものと言えます。

日本でインターネットの商用サービスが始まって10年を越えました。電話線を利用してダイヤルアップしていた当時は、28.8kbpsのモデムが高速と言われていました。夜11時にならないと従量で課金されるため、ユーザはその時間まで待って接続したものです。

それが現在、同じ電話線を使ったADSLで常時接続しながら最高40Mbps以上、光ファイバ(FTTH)を使えば100Mbpsで利用できるようになっています。おおよそ3500

倍のスピードが出る計算です。

例えば、大きめの写真(主にはJPEGと言う形式)は100kバイト程度の容量を持っていますが、単純計算で、28.8kbpsでは27秒かかる物が、光ファイバでは、一瞬で終わります。



WEBのホームページもデザインに凝ったものが増えましたが、表示されるまでのストレスを感じることも少なくなりました。

このスピードを生かして、さらにいろいろなサービスが始まっています。ためにWindowsに付いているWindows Media Playerを開いてみましょう。たくさんの番組があります。パソコンの画面から音楽、映像をすぐに楽しむことが可能です。

音楽番組を開いて見ます。そこではCDショップにいるように視聴する事ができます。気に入ったらダウンロードして購入。CDショップのように視聴の機械が空くのを待つ必要もなく、自分の部屋から好きなときアクセスするだけです。

動画配信のサービスも続々と増えています。インターネットで配信される動画には、主にテレビのような決められた時間に放送されるライブ放送と、レンタルビデオのように好きなとき見て、早送りや巻き戻しもできるオンデマンド放送があります。

光ファイバのプロバイダが試験的に提供している番組を見てみると、3Mbpsや5Mbpsで送られる映

像は、驚くほどきれいです。5.1Ch、DVDホームシアターと同じ音声品質を部屋にいながらにして楽しむことができます。

光ファイバによってこれまでの放送、通信ががらりと変わってしまうのは間違いありません。

電話も電話線ではなく、ADSLや光ファイバを使ってインターネット経由に、と言うのがIP電話です。まだまだ、完全ではありませんが、既に長距離や国際通話の料金でのメリットは見過ごすことができなくなっています。

教育/学習と言った面でも、有効です。例えば、英会話教室では、インターネットテレビ電話システムを使って、夜、海外の講師からレッスンを受けるサービスを提供しています。



防犯にも役立てられます。センサーやカメラで侵入者を検知し、携帯や会社のパソコンなどに通知します。さらに外出先からでも、自宅の様子を確認し、威嚇まで行うことが可能です。

デジタルディバイドという言葉があります。一言で言えば、インターネットを使える人とそうでない人の格差(収入も含まれます)が大きくなってしまったということです。情報化社会の生き残りの方法はインターネットを利用し尽くすと言っても過言ではありません。